

レスリング選手の性格特性（第5報）

－第24回ソウルオリンピック大会の試合 前後における情緒の変化と成績との関 係について－

Relationships between changes of characteristic traits
and performances at pre and post wrestling match
－ in case of 24 th Seoul Olympic games －

滝 山 将 剛

Yukitaka Takiyama

I はじめに

ヒトの情意（性格）的側面の特性を把握することは、そのヒトのパフォーマンス(performances)の成否を予測する上で極めて重要である。特にそれが実際の緊張した競技場面においては、その勝敗の決定に及ぼす比重が極めて高いことは、常日頃我々が痛感しているところである。筆者は今までにこの観点に立ってスポーツ選手、特にレスリング選手の情意的側面が実際の競技の勝敗とどのように関わっていたかについて報告して来た^{2) 3) 4)}。しかし未だ十分に個人の性格特性とパフォーマンス(performances;ここでは勝敗を意味する)の関係を解析するまでには至っていない。そこで本報告は、この点を一層明確にする目的で再度オリンピック代表選手の性格特性を調査した。その結果から、試合前後の情意的側面の差異がオリンピックという極度に緊張した実戦の場面で競技成績にどのように影響していたかについて再検討した。

II 調査方法及び被検者

被検者は、1988年9月18日～9月22日、ソウルで開催された、第24回ソウルオリンピック大会日

本代表、グレコローマンスタイル10階級の10人であった。本報告の対象となった被検者の氏名、年齢、所属、過去の成績、今大会の成績を表1に示した。調査方法は、矢田部・キルフォード(Yatabe-Guilford)性格検査(以下YG検査という)を使用した。本報告では、特にレスリング選手の性格特性を試合前後の情緒的变化に関心があり、それを検討することが目的であったことから、試合前後を中心に7月25日から10月25日の3ヶ月間に合計3回を実施した(注)。この3回のデータを使用し、それぞれを性格プロフィールに分類して比較検討した。

III 結果と考察

1. レスリング選手の性格特性について

YG性格プロフィールの類型⁵⁾に準じ、得られたグレコローマンスタイル代表選手10階級10名の試合前、試合直前、試合後の3回の性格プロフィールから3つの型に分類可能であった。その3つの性格プロフィールに属する全体の人数を表2に示した。この結果から、右下がり型(安定積極型: D-Type)性格特性を示す者が5名と一番多く、ついで平均型(平凡型: A-Type)3名、及び左

寄り型（安定消極型：C-Type）2名であった。この結果から特徴的なことは、右寄り型（不安定積極型：B-Type）及び、左下がり型（不安定消極型：E-Type）を示す者はいなかったことである。

これらの結果は、すでに報告されているスポーツマン的性格（安定積極型）¹⁾ の特徴を示すもの

がレスリング競技のオリンピック代表選手でも一番多く、性格特性はその範疇に属していた。

2. 試合前後の性格プロフィールの変化について

1) D-Type について

その代表例出口一也選手の試合前後の情緒的变化を図1に示した。また、全員（5名）のものを

表1 ソウルオリンピック大会日本代表選手の階級、氏名、年齢、所属及び今回の成績と過去の成績

グレコローマンスタイル

階 級	氏 名	年 齢	所 属	過 去 の 成 績	今回の成績
48kg級	斉藤育造	28歳	和歌山県教育庁	第23回ロサンゼルスオリンピック大会 3位 第10回アジア競技大会出場	2回戦
52kg級	宮原厚次	29歳	自衛隊体育学校	第23回ロサンゼルスオリンピック大会 優勝 第10回アジア競技大会 優勝	2 位
57kg級	中留俊司	23歳	京都府立南八幡高校 教 員	第10回アジア競技大会 優勝	3回戦
62kg級	西口茂樹	23歳	日本体育大学研究員	1987年世界選手権大会 3位	3回戦
68kg級	大久保康裕	27歳	自衛隊体育学校	1984年ワールドカップ大会 出場	6 位
74kg級	伊藤広道	24歳	自衛隊体育学校	第10回アジア競技大会 出場	8 位
82kg級	向井孝博	30歳	自衛隊体育学校	第10回アジア競技大会 2位 1987年世界選手権大会 出場	3回戦
90kg級	森山泰年	31歳	自衛隊体育学校	第10回アジア競技大会 優勝 1987年世界選手権大会 出場	2回戦
100kg級	福辺雅彦	27歳	奈良県立御所工業 高 校 教 員	1987年アジア選手権大会 出場	2回戦
130kg級	出口一也	22歳	国士舘大学 4 年	1986年、1987年世界選手権大会 出場	6 位

表2 ソウルオリンピック大会代表グレコローマンスタイル10階級10人3つの性格特性の人数とそのパーセンテージ

D-Type (右下がり型—安定積極型)	5名 (50%)
C-Type (左寄り型—安定消極型)	3名 (30%)
A-Type (平均型—平凡型)	2名 (20%)

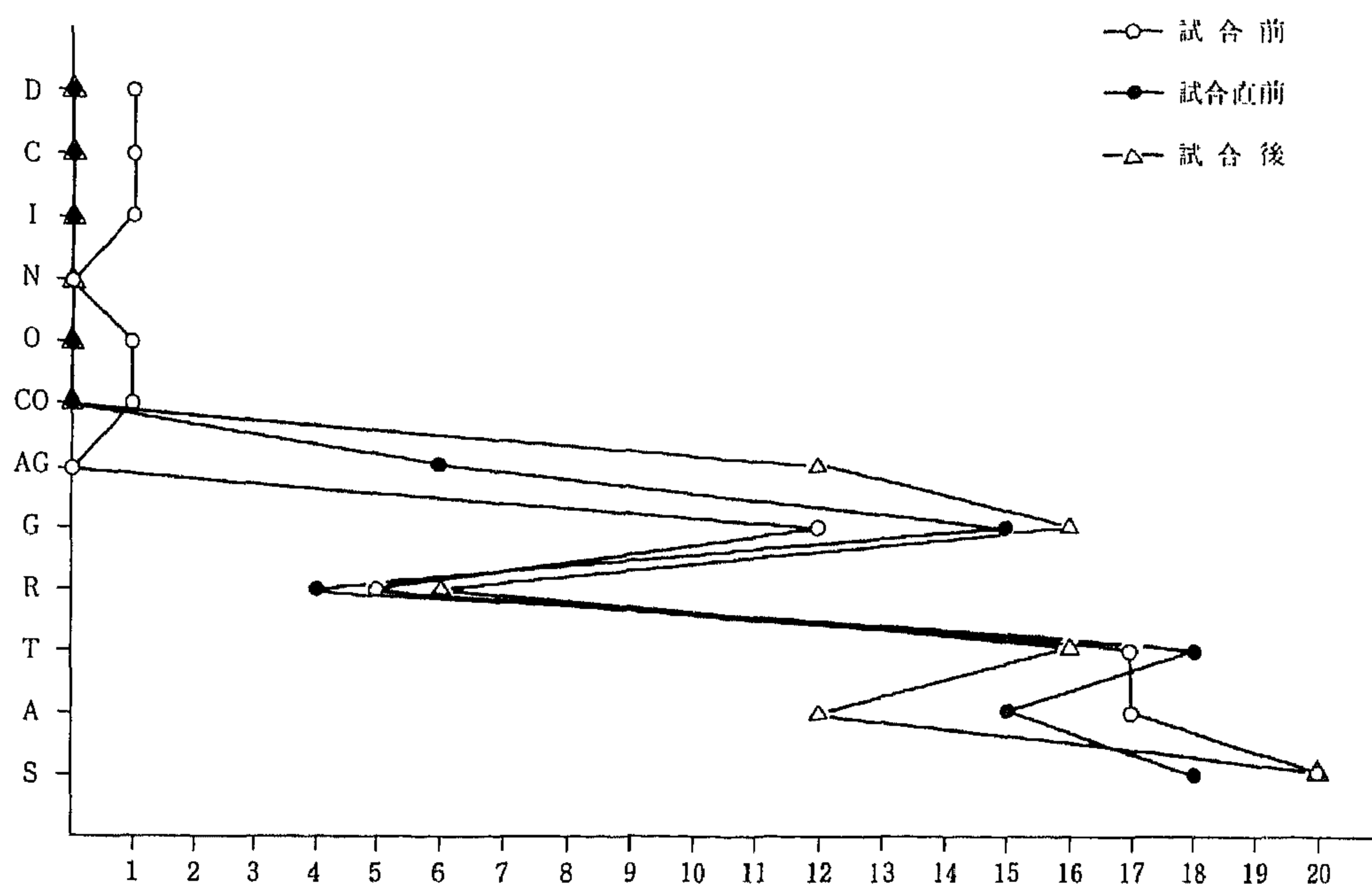


図1 試合前後の各性格尺度の変化を示す性格類型D型の代表例
130kg以上級 出口一也選手

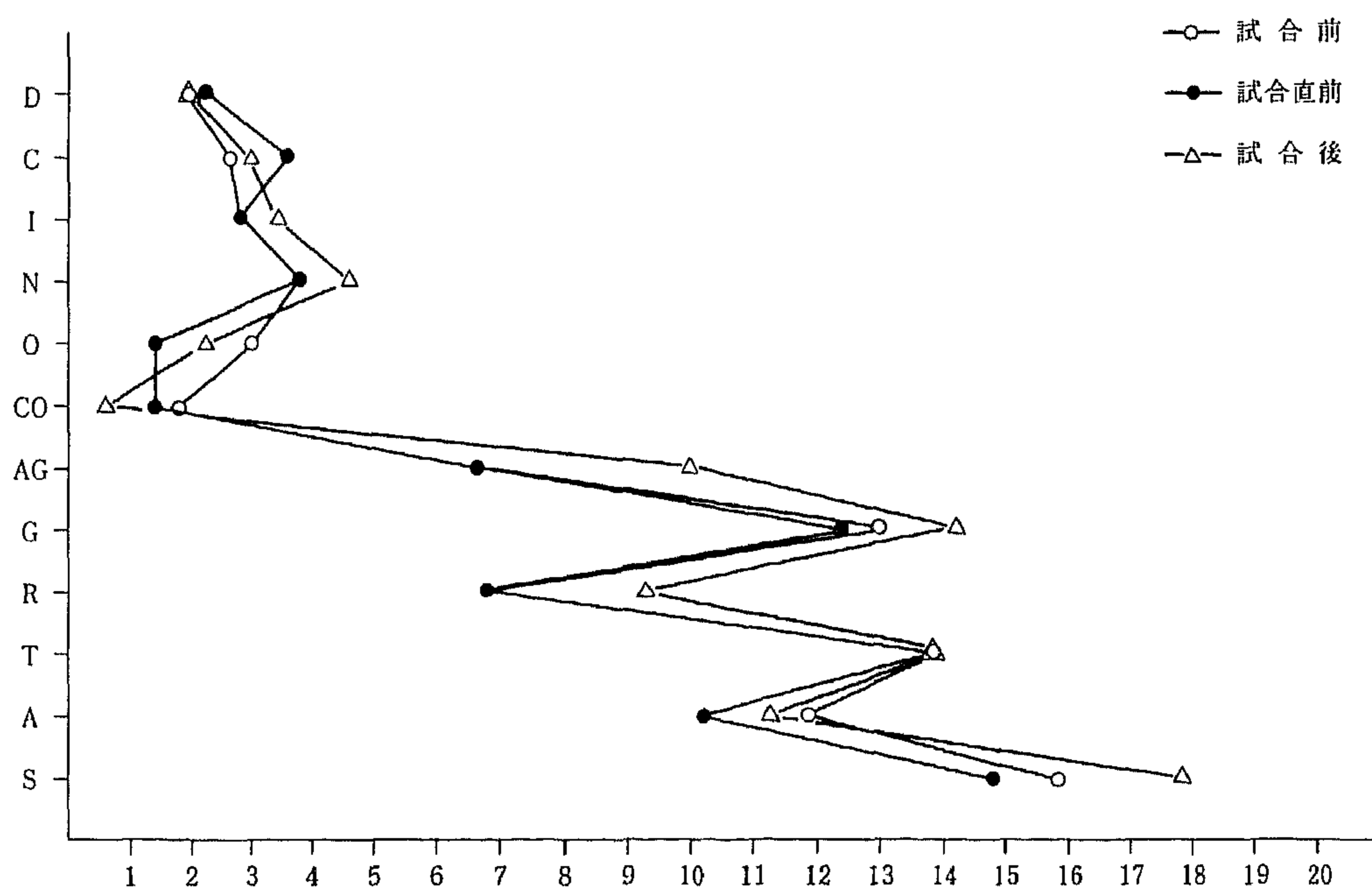


図2 性格類型D型を示した全被験者の試合前後における各性格尺度の変化の平均値

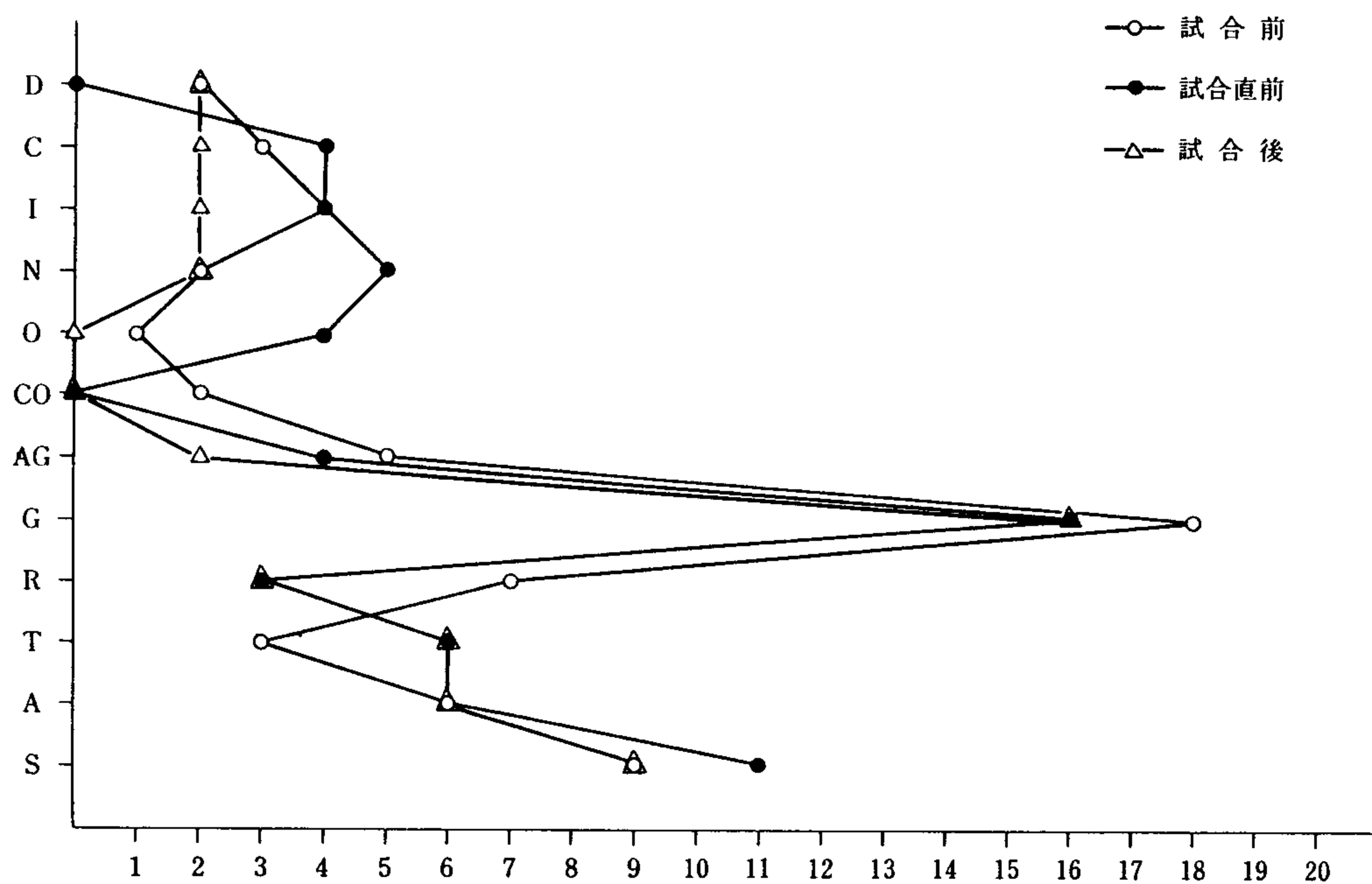


図3 試合前後の各性格尺度の変化を示す性格類型C型の代表例
68kg級 大久保康裕選手

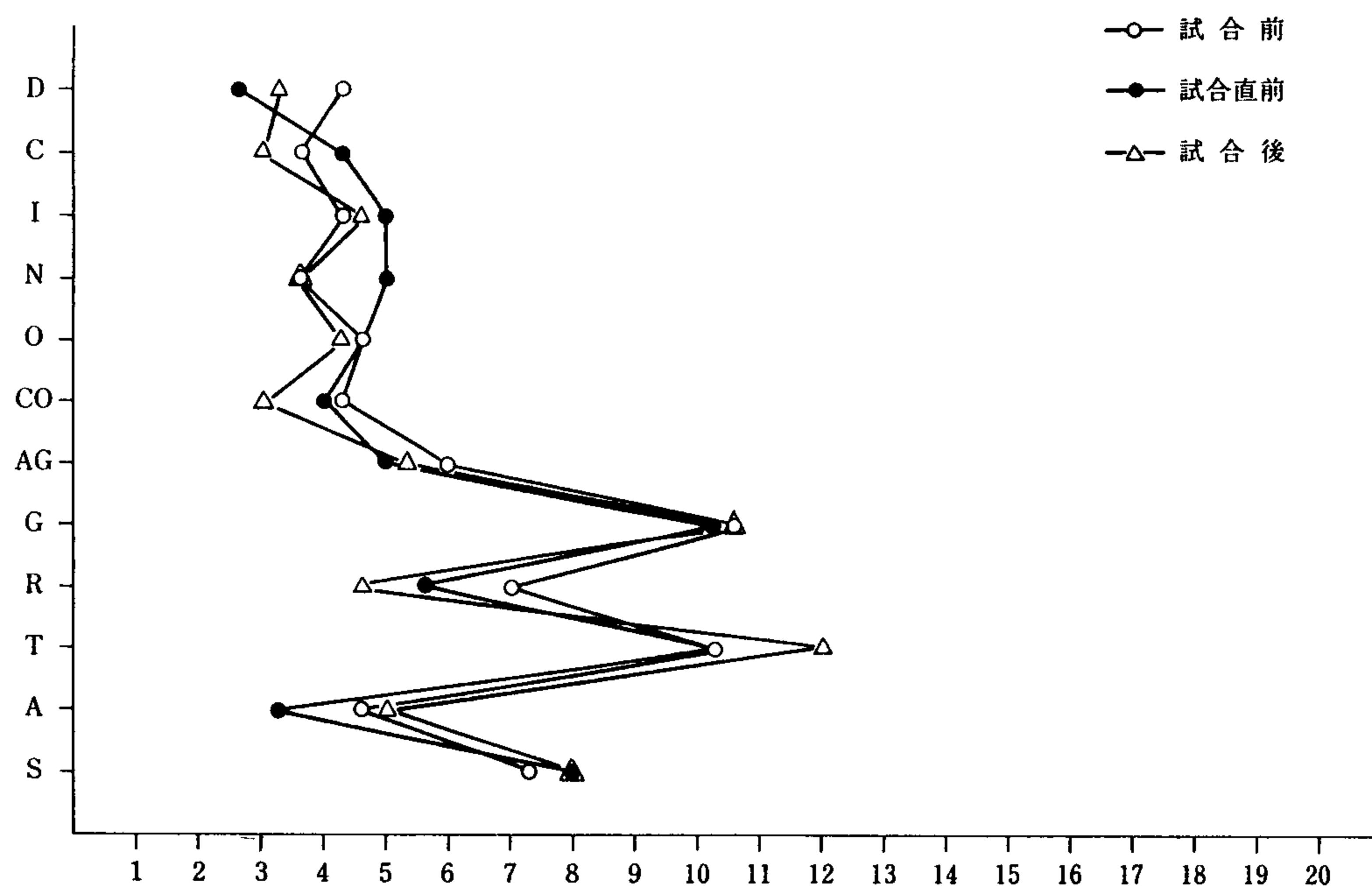


図4 性格類型C型を示した全被験者の試合前後における各性格尺度の変化の平均値

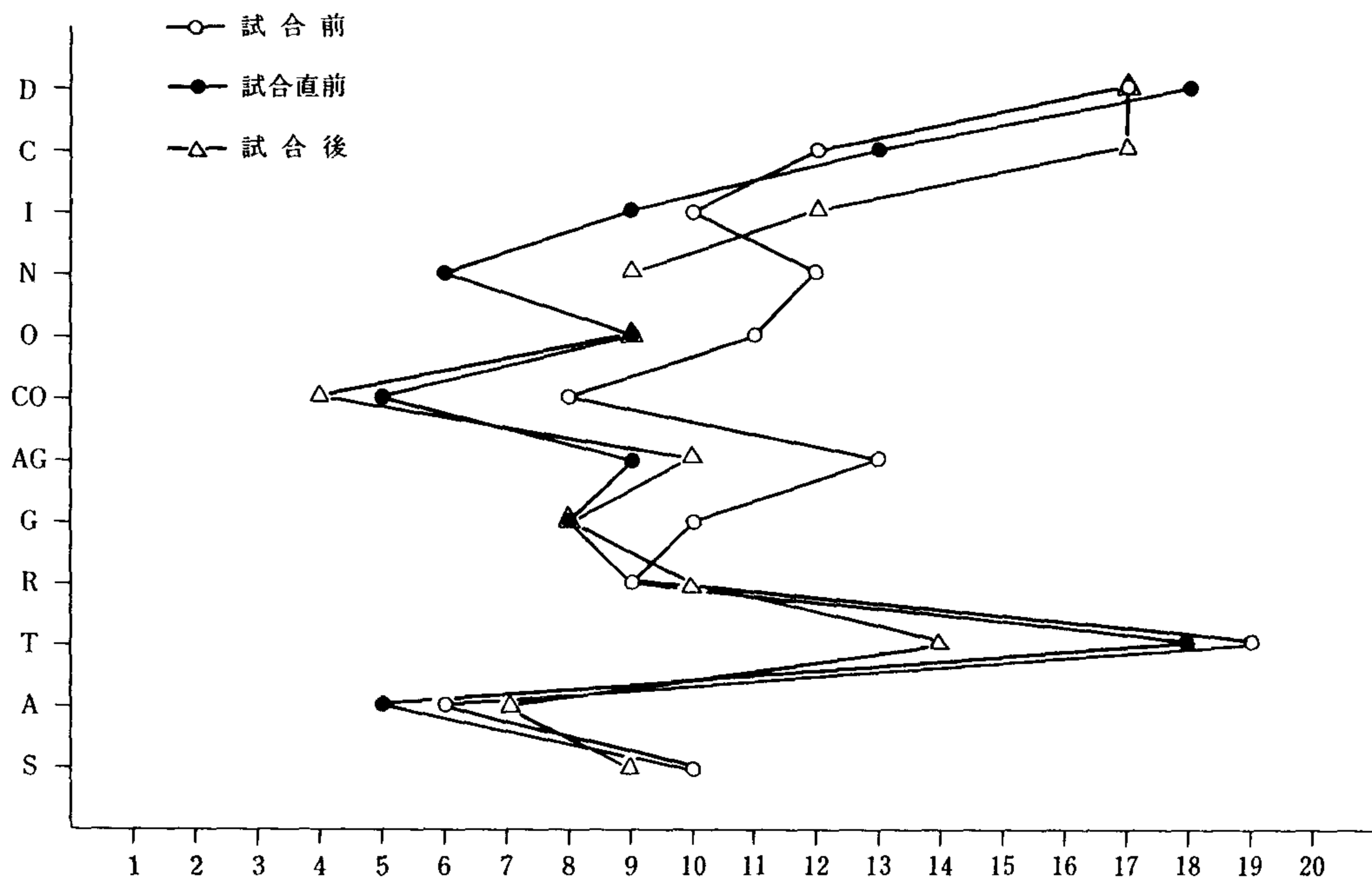


図5 試合前後の各性格尺度の変化を示す性格類型A型の代表例
52kg級 宮原厚次選手

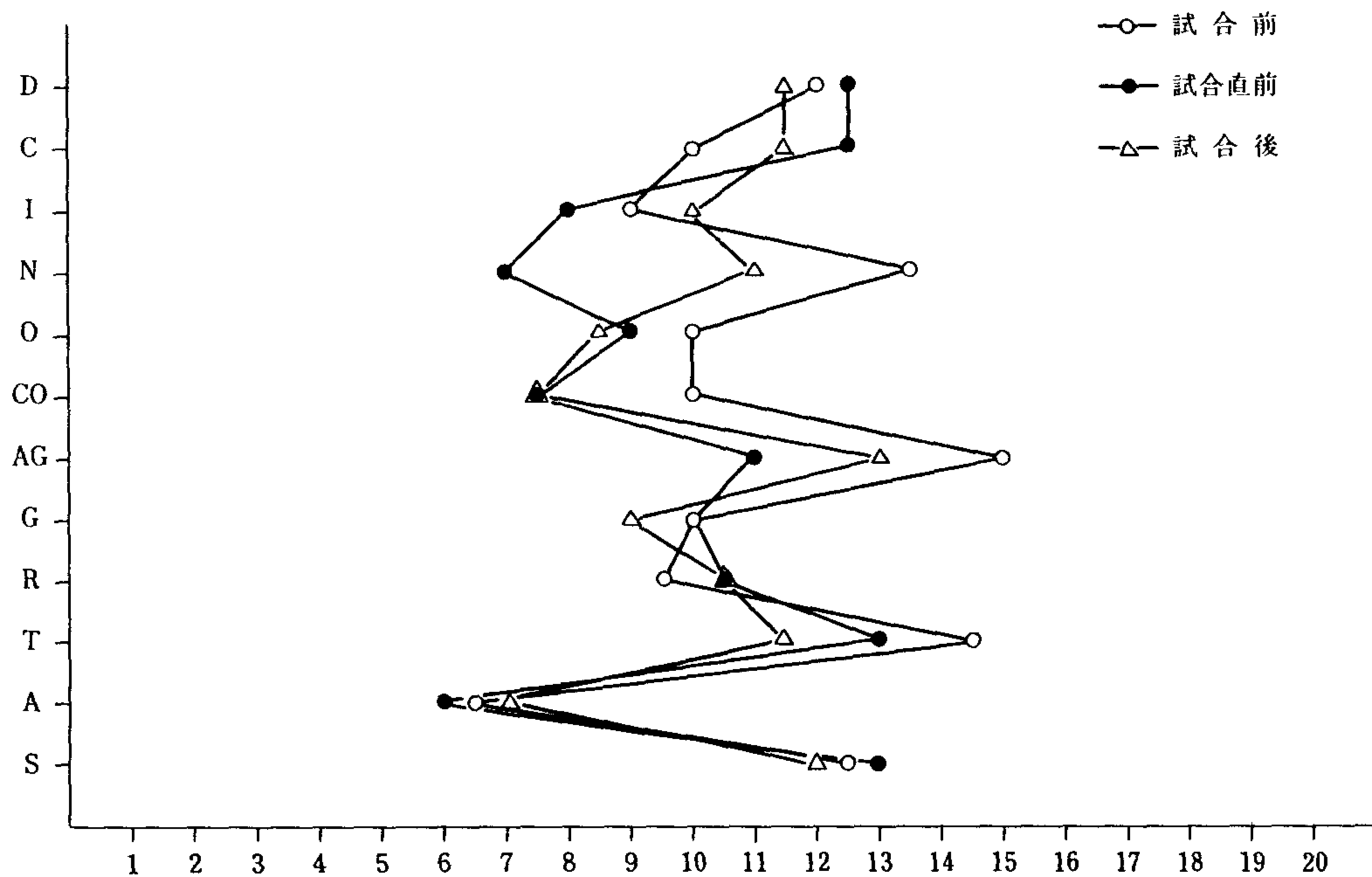


図6 性格類型A型を示した全被験者の試合前後における各性格尺度の変化の平均値

まとめて図2に示した。これらの結果から、典型的なスポーツマンタイプであるD-Typeの性格特性を示した選手は、試合前後の情緒的变化は少なく今まで報告した結果²⁾³⁾⁴⁾を支持するものであった。今回の試合結果においても、ほぼ各選手が実力通りの結果を示していた(表1参照)。このことから、大局的には典型的なスポーツマン的性格であるD-Typeの性格を示す選手は、試合という精神的な緊張を伴う場面においても、情緒的变化は少なく、その実力さえ十分備えていれば、試合に伴う情緒的变化にはあまり左右されない試合結果が得られるものと期待できる。

2) C-Typeについて

その代表例大久保康裕選手の試合前後の情緒的变化を図3に示した。また、全員(3名)のものをまとめて図4に示した。C-TypeについてはこのTypeを示す被験者が少なかったために、試合前後に情緒的变化が起っていることを示していた。この情緒的变化は、試合直前で日常の状態に比べて、気分の変化(C尺度)が大きくなり、神経質(N尺度)になり客観性が失なわれていることを示していた。これは試合前において一種の興奮状態になっていることを如実に示す結果であった。しかし、実際の試合結果からみると、実力通り自分の力を発揮している者と、そうでない選手がみられた(表1参照)ことから、試合直前の追いつめられた精神状態(情緒変化)として良い方に反映したものと、追いつめられた精神状態で平常心を失なったもの、との差が競技成績に反映した結果であった。

3) A-Typeについて

このTypeを示した被験者は2名であった。図5に宮原厚次選手、図6に二人の平均のプロフィールを示した。C-Typeと同様に試合前後の情緒的变化が起っていることを示していた。そして、このA-Typeにおいても実際の試合結果からみると、実力通り自分の力を発揮している者と、そうでない選手に別に別れていた。

以上の結果からここで特に注意しなければならないことは、その性格特性を示す者が選手として適しているかを問題にするよりも、どのTypeの性格特性を持つ選手が、試合という緊張した実戦

の場面において情緒的に平常でいられなくなるか(結果としてマイナスに作用し、試合において十分実力を発揮できない)という点である。本調査結果では、A-Type(平均型)とC-Type(安定消極型)がそれに該当することを示していた。しかし、今回はグレコローマンスタイルのみを考察の対象としたことで被験者が少なく本当にA-Type, そして、C-Typeに限っていえることか(先の事例報告では、E-Typeの者にも試合前後の情緒的变化が認められた)どうか一層詳細な検討が必要である。また、これが他の種目のスポーツ選手においてはどうか、レスリング選手のみにみられる限られた現象なのか、といった重要な検討課題が今後に残されている。

IV まとめ

ソウルオリンピック大会レスリング競技日本代表選手グレコローマンスタイル10階級10名について、試合前後にYG性格検査を実施し、その性格特性のスケールの変化から、次のような知見を得た:

1) レスリング競技のオリンピック日本代表選手の性格特性は、今までスポーツマン的性格として一般的に言われていた性格特性と同様であった。

2) 試合前後の性格プロフィールの変化は、性格プロフィール中、神経質になり客観性を失ない、抑うつ的で劣等感を持つという心理的には試合を行なう上でマイナスに作用する因子が、試合前に大きくなり、試合後に小さくなることが認められた。これに該当したTypeはA-TypeとC-Typeであった。

注: 第1回目, 強化合宿中, 於菅平高原文部省体育研究場, 第2回目, 試合前日, 計量通過後。第3回目, 帰国一ヶ月後。

本研究において、国士舘大学体育学部附属体育研究所の研究助成金の交付を受けた。

参 考 文 献

- 1) 花田敬一, 藤善尚憲, 河瀬雅史(1966); スポーツマン的性格, 体育学研究, 11(1), P6-9。

- 2) 滝山将剛 (1979) ; レスリング選手の性格特性(第1報) —試合前後の変化について—, 国士舘大学体育学部紀要, Vol. 5, P31-37。
- 3) 滝山将剛 (1982) ; レスリング選手の性格特性(第3報) —ジュニア選手(18才~20才)の国際試合前後における情緒の変化と成績との関係について—, 国士舘大学体育学部紀要, Vol. 8, P91-94。
- 4) 滝山将剛 (1984) ; レスリング選手の性格特性—

- 第23回ロサンゼルスオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と成績との関係について—, 昭和59年度, 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告, No. II 競技種目別競技力向上に関する研究(第8報) 日本体育協会, スポーツ科学委員会, P218-222。
- 5) 辻岡美延 (1978) ; YG性格検査実施手引, 日本心理テスト研究所。

